

鳥取県立博物館では、令和7年春に開館する鳥取県立美術館での「美術を通じた学び」を支援する「アート・ラーニング・ラボ(A.L.L.)」の設置に向けて、子どもたちが美術作品やアーティストと出会う機会を増やす方法や、美術館と学校との連携方策、館内外での教育普及事業について、実践的な調査研究を進めています。

この一環として令和元年に立ち上げた「シリーズ・美術をめぐる場をつくる」では、子どもたちをはじめとして幅広い年齢層が多様なアートと出会う場の創出を試みてきました。第4回目を迎える今回は、サウンド・アーティストの鈴木昭男氏、ダンサー／アーティストの宮北裕美氏による鳥取のためのインスタレーション作品を公開します。また、音やダンスなど身体表現をベースに表現活動をおこなう両名のライブ・パフォーマンスもあわせて実施し、多様な鑑賞体験を提供します。

本事業を通じて、「アートと出会い、アートに触れ、参加できる」場をつくり、アートを身近に感じるとともに、表現や鑑賞を楽しみ、子どもから大人まで誰もが美術を通じて学ぶ機会を創出することを試みます。

感じる Sense

鈴木昭男と Akio Suzuki and 宮北裕美の Hiromi Miyakita's あrikaた way of being



オープニング・イベント

2023年2月26日[日] 14:00-16:00 会場|第3特別展示室|要観覧料

ライブ・パフォーマンス/14:00-

鈴木昭男と宮北裕美が展示室を会場にパフォーマンスを行います。

オープニング・トーク/15:00-16:00

松尾恵氏をゲストにお迎えし、アーティストのおふたりとともにこれまでの活動などを伺います。

ゲスト/松尾恵:ギャラリスト。京都市立芸術大学卒業。作家活動を経て、1986年よりヴォイスギャラリー運営。現代美術の京都拠点の作家、海外作家を紹介。美術の身体性に関心があり、舞台作品や身体表現の製作への参加や、芸術との関わりを探って考古学、物理学などの研究者との協働も行う。1990年代より京都市の文化行政に関わり、京都国際現代芸術祭 PARASOPHIA や美術館再整備検討委員会などに参加。1995年ACC奨学生としてアメリカの非営利芸術活動視察。現在は、公益財団法人京都市芸術文化協会理事(京都芸術センター指定管理者)。

映画「ソラネ 幸福の帽子をかぶって生まれてきた子」上映会&ディレクター・トーク

2023年3月12日[日] 13:00-16:30 会場|講堂|参加無料

2012年から2017年にかけて鈴木昭男と宮北裕美を追いかけた長編ドキュメンタリーをプレミア上映します。上映後には宮岡秀行監督とアーティストによるアフタートークを行います。

音とダンスのパフォーマンス「TaYuTaI」

2023年3月19日[日] 14:00- 会場|講堂|入場無料

「H2AD」鈴木昭男、宮北裕美、山崎昭典、drowsiness、安田敦美がライブ・パフォーマンスを行います。



ACCESS

- ◎JR鳥取駅からバスで
 - 100円バス「くる梨(緑コース)」で「①仁風閣・県立博物館前」下車すぐ
 - ループ麒麟獅子(土・日・祝のみ)で「③鳥取城跡」下車すぐ
 - 砂丘、湖山、賀露方面行「西町」下車約400m
 - 市内回り岩倉・中河原方面行「わらべ館前」下車約600m
- ◎JR鳥取駅からタクシーで…約10分
- ◎鳥取空港から…鳥取駅行連絡バスで「西町」下車約400m
- ◎お車で…鳥取自動車道・鳥取ICより約15分

○当館駐車場40台駐車可能 ※なるべく公共交通機関をご利用ください

鳥取県立博物館
TOTTORI PREFECTURAL MUSEUM
〒680-0011 鳥取県鳥取市東町2丁目124 TEL. 0857-26-8042 FAX. 0857-26-8041
https://www.pref.tottori.lg.jp/museum/ E-mail:hakubutsukan@pref.tottori.lg.jp



いっしょにみてみて、もくようび。
展示室に小さなお子様とご一緒においでいただき、気兼ねなく作品鑑賞をしていただくための時間として、会期中の毎週木曜日の午前中を「子どもと一緒にの鑑賞優先時間」としています。ペピーカーを押してぜひお越しください。



鈴木昭男「o to da te」展示風景、ノルトホルン市立ギャラリー/ドイツ、2022



宮北裕美(Drift) 2015, ビデオ・スチル



宮北裕美(Motion Clip) 2018, インスタレーション(部分)



鈴木昭男(wave quartet) 2020、宮北裕美(Nu Tu-2020 Dance with pebbles) 2020によるインスタレーション、ドレスデン市立現代美術ギャラリー、2021-22

鈴木昭男(すずき あきお)

1941年生まれ。1963年、名古屋駅でおこなった《階段に物を投げる》以来、自然界を相手に「なげかけ」と「たどり」を繰り返す「自修イベント」により、「聴く」ことを探求。1970年代にはエコー楽器《アナラボス》などの創作楽器を制作し、演奏活動始める。1988年、子午線上の京都府網野町にて、一日自然の音に耳を澄ます《日向ぼっこの空間》を発表。1996年に街のエコーポイントを探る「点音」プロジェクトを開始。ドクメンタ8(ドイツ、1987年)、大英博物館(イギリス、2002年)、ザツキン美術館(フランス、2004年)、ボン市立美術館(ドイツ、2018年)、東京都現代美術館(2019)など、世界各地の美術展や音楽祭での展示や演奏多数。

宮北裕美(みやきた ひろみ)

兵庫県伊丹市出身。イリノイ大学芸術学部ダンス科卒。舞台芸術の出演や振付を経て「立つ、歩く、座る」と言ったシンプルな動作、身の回りのモノや現象にダンスを見出し、即興パフォーマンスや視覚芸術の可能性を探る。2012年、京丹後市に拠点を移し、浜で採集した自然の石を打つダンス「NuTu(ヌトゥ)」を創始、国内外で上演。近年は美術館、鉄道、公園、路上、日本庭園など様々なサイト・スペシフィック・パフォーマンスを手がけ、「その日のダイヤグラム-丹後〜豊岡 パフォーマンス列車の旅」(京丹後市・豊岡市、2017年)などをディレクションする。ダンサーとして活動してきた固有の時間感覚や空間感覚を美術表現へと持ち込み、3331アーツ千代田(2019)、Kunsthau Dresden(2021)などで発表している。

